

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

東橋いちい認定こども園

平成29年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

2 重点的に取り組む目標・計画

- ①乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流
- ②保育環境整備や環境構成の創意工夫
- ③地域を身近に感じる保育の工夫
- ④保護者理解と連携の強化

3 評価項目の達成及び取り組み状況

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

評 価 項 目	達 成 及 び 取 組 み 状 況
「教育保育の計画性」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none">・ 昨年反省として挙げられていた自らの意識として「園の教育保育理念・目標の理解」が足りなかったことについては、今年度は意識しながら保育に取り組めたことが評価として挙げられ良かった・ 指導計画については、日々の保育に直結することもあり、よく考えながら計画的に進めることができたが、子どもの実態に合わせながら順応性をもち保育するまではいかなかった。・ 環境保育については、昨年も反省点が多かったため、今年度の重点目標にも入れたことや園内研究のテーマとしても取り上げたこともあり、今までよりは、目を向け考えることができたと考えるが、考えるきっかけや視点が広がったことに留まっており、自分なりに保育に活かすまでにはなっていない。・ 昨年につき、学園の取り組みとしても「教育保育課程・指導計画」の見直しを細かく行ったことにより、さらに、意識が高まり良かった。

<p>「教育保育のあり方、幼児への対応」について</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの園児に丁寧に接し、それぞれの成長や発達また、性格等に合わせた援助を日々考えながら行うことができたと考える。 健康安全面については、日々の「確認の会」や定期的に行う会議等で「ヒヤリハット」を出し合うことにより、各自の意識と緊張感を高めることができた。しかし、予測しきれていなかったところで、怪我が発生してしまったこともあったため、園児の遊びの理解とともに、その後の予測をしながら対応することを今後も園としてしっかり行いたい。 保育者同士の連携では、今年度の園内研究を通して他学年の子どもの育ちや遊びの興味・関心に目を向け考えることができたこと、他クラスとの関わりがもてるような保育を取り入れたこと、保育後の作業等では互いに声を掛け合い皆での作業を行うなど、皆が意識しながら連携できるようになってきたことが評価できる。
<p>「保育者としての資質と能力」について</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> この項目に関しては、各保育教諭が意識を高くもち実行できていたと感じる。各自で意識し努力することはもちろんであるが、職員間でも意識し合い、互いに高められる職場環境や雰囲気作りに引き続き努めたい。
<p>「保護者への対応」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、一つ一つ丁寧に対応できたと考える。また、様々な対応について、各保育教諭が一人で抱え込むことなく、他の職員と相談し合いながら対応できたことについても良かったと感じている。 しかし、各保護者に対して園の考えや保育について、子どもの園生活や成長についてなどを発信することはできたが、必要とされることで留まってしまい、積極的に行うところまではいけなかった面もあったため、今後も努力したい。
<p>「地域の自然や社会との関わり」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然や環境については、日常的に行っている散歩や公園遊びを通して、意識を高めながら理解することができていると感じる。しかし、それぞれの担当クラスのみでの認識で終わってしまいがちであったため、日々の「確認の会」で報告し合うようにしたところ、効果的であった。しかし、まだ習慣化しておらず、各保育教諭間の情報共有に繋がっていない面も見られたため、さらに意識が高まるよう工夫したい。 例年実施している東橋小学校や地域の子育てサロン、老人クラブとの関わりについては、今年度も実施でき地域の方々のご理解やご協力に感謝している。しかし、新たな関わりをつくることはできなかったため、次年度も様々な機会を模索したい。

<p>「研修と研究」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修については、園として参加が必要とした研修や必須（新人研修、2年次研修、特別支援）の研修に参加することで終わってしまい、自ら選んで積極的に参加する状況ではなかったことが残念であった。 参加したい研修を選んだり、研修に参加しやすい職場環境づくりを改めて考えたい。 ・園内研究は、今年の主題や実践内容が、全職員が関われるものだったため、より自分のクラスの子どもの成長を考える機会になったり、他の学年の育ちに合わせた遊びや遊び方などを皆で一緒に考え合う良い機会になったことを評価している。
------------------------------------	---

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

目 標	具体的な取組み計画	自己評価
<p>① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流</p> <p>自己評価 「A」</p>	<p><乳幼児理解について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育保育課程・指導計画」の見直した部分の確かめをしながら保育を行い、より理解を深める。 ・30年度から施行予定の「幼保連携型認定こども園教育保育要領」の改定のポイントも意識しながら取り組む。 * 学年部会の内容の充実 * 会議等の内容の吟味 * 園内研究の場の活用 * 外部研修の活用 <p><乳児と幼児の交流について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの成長段階をしっかりと伝え合いながら無理なく実践できるよう、重点的に取り組み、互いに良い成長に繋げる。 * 指導計画に位置付け取り組む * それぞれの学年が落ち着いてくる2学期から徐々に始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度行った「教育保育課程・指導計画」の見直しを実践すると共に、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」30年度施行に向けて学園での基底編改訂会議も行き、さらに理解を深めることができた。また、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」改訂ポイントの研修にも数回参加し、確かめを行えた。 ・園内研究を通して「子どもの興味・関心に合わせた遊びや引き出す遊び」について考え会い実践に繋げることができた。 ・乳児と幼児の交流については、昨年度より実践を重ねることができ、子どもたちの同士が互いを意識し優しさや思いやり、憧れなど様々な思いに繋げる経験ができた。今年度は取り組み始めるのが遅くなったため次年度は、より計画的に進めたい。
<p>② 保育環境整備や環境構成の創意工夫</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今一度、子どもの成長に繋がる環境構成を日常の保育の中で考え取り組む。 ・保育の中での工夫や、園全体の環境整備など、意識的に取り組む。 * 園内研究の取組み * 園庭環境の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境整備は、園全体としての観点で考えた。主に園庭の遊具の配置や補修等を行なえたことは良かった。（鉄棒の移設・丸太遊具の埋め換え・日よけテントの設置など）このように、今後も今ある環境を当たり前の固定

	<p>* 学園図書委員会の取組みを活かす</p>	<p>されたものと捉えず、子どもたちにとってどんな環境が適しているかという視点を持ち、環境整備に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、園内研究を通して、園庭の環境構成（主に遊びの道具など）を季節ごとに見直ししたことも様々な視点から考えることができ、良かったと感じている。 • 学園の図書委員会の活動を通して、今までの図書に対する視点を見直す、改めて考えるという動きとなったため、それに伴い園の図書を整理した。大きな変化はなかったが、この機会に子どもたちの大事な環境のひとつである図書の環境について考えることができ良かった。次年度に活かしたい。
<p>③ 地域を身近に感じる保育の工夫</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「地域の理解や地域とのかかわり」についても、意識を高める。 • それぞれの年齢によりできることが違うため、それぞれの気づきや工夫を伝え合える機会を設ける。 * 近隣への散歩での発見や気づきなどの情報を共有する * 園開放を通して、地域の方々との関わりを持つ。 * 地域の子育てサロンとの関わる 	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度は、日常的に行っている園周辺の散歩や近隣の公園などでの遊びについて、地域のことをもっと知り、それを園として共有できるようにという意識のもと、日々の保育を行なった。それによって気づきや発見が増え、日々の「確認の会」等で情報共有し、活かすことができた。 • 園開放では、全職員で関わられるよう乳児クラスの職員も出し物をするなどしながら参加することができ、年齢に合った出し物を見せることができたことが良かった。次年度は、さらに、地域の方々に親しんでいただけるよう、園児との交流をしたり身近に園の保育を感じてもらえるよう考えたい。 • 地域の子育てサロンとの関わりでは、当園が会場になる際には、園児と一緒に遊んだり、地区センターにも園児と共に参加し、歌や踊りを披露するなど、成長の見通しや今後の期待感へ繋がる活動ができ、良かった。

<p>④ 保護者理解と連携の強化</p> <p>自己評価 「B」</p>	<p><保護者理解について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題が多い面であるため、引き続き努力する。 ・保護者理解のために、出来ることは何かを職員間で常に意識しながら、事例など具体的なことを確認し合いながら進める。 *様々な面から考えられるように、色々な機会(確認の会や学年部会等)で具体的な話をしながら、理解を深める <p><連携について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携するには、保護者理解が重要との考えを基に取り組む。 *どのようにしたら連携の強化に繋がるかを具体的に挙げ(偏りが出ないようにチェックする等)、各保育教諭が違う対応にならないよう、情報を共有し進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解・連携を、丁寧に行なうことを心がけることができた。また、他クラスのトラブルや保護者からのご意見などを日々の確認の会で情報共有をし、どの職員が対応しても共通の対応ができるよう心がけた。 ・また、子どもの良い姿や成長の面なども出来るだけお伝えできるようにしてきた。どのご家庭にも、同じような連携ができるよう連絡した内容や日付など名簿でチェックする等配慮した。 ・しかし、年間を通してまんべんなく行なうことが出来なかったクラスもあるなど、クラスごとに差が出てしまうこともあったため、それぞれの家庭がより安心して預けられるような具体的な工夫と現状の確認体制を整えたい。 ・3歳以上のクラスでは、「幼稚園部門」「保育園部門」が、一緒に生活を送っていくが、特に「保育園部門」の方々へのお知らせや連絡が不足していた部分や行事の日程など配慮不足な面があったため、次年度も保護者の皆さんが、安心して理解しやすい工夫と努力をしていく。
--------------------------------------	---	--

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
<p>① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、取組み方や方法などが見出せた頃に、年度が終わってしまったため、その反省や評価点を活かし、さらに子どもたちにとって良い関わりが生まれるようにする。また、これらの活動をするにあたり、保育教諭同士が各年齢の育ちや状況などを細かく学び合う機会となるようにしたい。
<p>② 保育環境整備や環境構成の創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組みにより、各保育教諭の意識が高まったことから、それを活かしさらに良い環境創りが出来るよう考えている。 ・保育室内の中での小さな工夫から、園全体の環境整備も含め、意識を持って取り組みたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本についても、今年度から継続してよい環境を創れるようにしたい。
③ 保護者理解と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も努力してきた部分ではあるが、新たな課題が見えたり、対応を考えなければならない面が出てきているため、引き続き努力したい。
④ 保育教諭の研修への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、参加必須の研修や、園として参加したほうが良い研修を受けるという受身な参加姿勢がほとんどだったため、各保育教諭自身がより意識して、自分のスキルアップのために研修を積極的に受けられるような体制を整えたい。